ロシア兵墓地
Russian Graveyard

この当時の日本政府は日本が未開国ではないことを世界に知ってもらいたいという外交上の理由もあって、戦時捕虜のとりあつかいについては国際法の優等生であった。ロシア捕虜をとびきり優しくとりあつかったというよりむしろ優遇した。

その収容所は各地にあったが、松山がもっとも有名であり、戦線にいるロシア兵にもよく知られていて、かれらは投降するということばをマツヤマというまでになり，

「マツヤマ、マツヤマ」

と連呼して日本軍陣地へ走ってきたりした。

司馬遼太郎著『坂の上の雲』（文藝春秋刊）単行本：5巻より

日露戦争当時、政府は全国に29ヵ所のロシア兵捕虜収容所を設けたが、まず最初に松山の地に収容所を開設した。松山には多いときで4千人をこえる捕虜がいたが、傷病等の理由のほか、松山に来る途中の船内で亡くなった者も含めて98名が死亡し、埋葬された。当初、ここから歩いて1、2分の妙見山の山頂（現在は松山大学御幸キャンパス）に、旧陸軍によって墓地がつくられていたが、昭和35（1960）年にこの地に移された。

道後公園にて自転車競争をするロシア人捕虜
Russian prisoners of war racing bicycles in Dogo Park

明治39(1906)年当時のロシア人墓地
The Russian graveyard in 1906

At the time of the Russo-Japanese war, the government set up twenty-nine camps nationwide for Russian prisoners of war, but the first was established in Matsuyama. There were more than 4,000 prisoners in Matsuyama at times, but ninety-eight of them died, from injuries or illness, including those that died on ships on their way to Matsuyama. They were buried here. Initially a cemetery was made for them by former soldiers at the top of Mt. Myoken a few minutes' walk from here, but it was moved here in 1960.